

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちは毎日のように選択を迫られます。仕事に打ち込むべきか、それとも余暇を楽しむべきか。おいしいものを食べようか、それともダイエットを心がけようか。そして、「どちらが正しいだろう」と思案するわけですが、そう簡単に結論は出ず、そうなるような疑問が湧くこともあります。「そもそも『正しい』って何なんだ?」。その答えを得るには、「正しい」という言葉の語源を知ることが助けになります。

「正しい」の「し」は、「おいしい」「やさしい」といった多くの語に共通することからわかるように、形容詞を作るための台座のようなもの。意味を担うのはその前の「ただ」です。そして「ただ」だけを見つめていると、「ただ一人」「この品はただ」といった例文が浮かびますね。すなわち「唯一」あるいは「A」という意味の「ただ」。一見、関係ない言葉のようですが、実は「ただしい」の「ただ」の源は、この二つと同じなのです。

「ただ」という語のそもそもの意味は、「そっくりそのまま、ほかの要素が入り込まない」ことです。確かに「ただ一人」とは「人が一人いて、ほかの人は入り込まない」状態ですね。いっぽう「A」という意味にもなった理由については、店員と客のこんなやりとりを想像してください。店員が「この品をどうぞ」と差し出し、客は「おいくら?」。すると店員は「これをお渡しすることにお金という要素は入り込みません」という思いを表すために言うのです。「ただ受け取ってください」。そんな「ただ」の使い方から、「A」という意味の名詞「ただ」が生まれました。

「正しい」も、同じ「ただ」から生まれた言葉。だから、もともとの意味は「そっくりそのまま、ほかの要素が入り込まない」ことです。私たちが人の行動や発言などを評価するときには、必ずその土台に何らかの基準があります。伝統的には、経験則、学問の書、宗教の教え、村のおきてといった「規範」と見比べます。その結果「そっくりそのまま、ほかのものが入り込んでいない」と思ったときに使う言葉、それが「正しい」なのです。だから本当は「規範である〇〇に照らして正しい」と言うべきなのですが、近代以前の日本は、住人のほぼすべてが同じ規範に従う、いわゆる「村社会」が多数を占めていたので、この部分を省略しても問題がなかったのでしょう。

しかし、現代の日本は状況が異なります。私たちの心は多様な価値観の間で揺れていて、絶対と言える規範はありません。なのに、近代以前の発想が心を支配しているのか、あるいは学校時代に一つの正解を持つ問題ばかりを解いてきたせいなのか、「よく考えれば正しい答えが見つかるはず」と思ってしまうがちです。

それはゴールを決めずにゴールに向かって走るようなもの。迷ったときにまず考えるべきは、自分は何を規範とするか、ということ。そのうえで、その規範に照らして何が「正しい」かを思案する。それが、「正しい」の語源が授けてくれる思考法の王道です。

*注 形容詞——主に状態や性質を表す、「〜い」という形で終わる言葉。

(高橋こうじ『日本の言葉の由来を愛おしむ』による)

問一 三か所のAに入れるのに適当な漢字二字の言葉を、自分で考えて答えなさい。

問二 ——線部1「近代以前の発想」とはどのような発想ですか。二十字以内で答えなさい。

問三 ——線部2「迷ったときにまず〜」ということですが、それはなぜですか。理由を答えなさい。

問四 ~~~線部X「ダイエット」のように「〜ット」という形で終わる外来語で、次の1〜5の意味になるものを、解答らんに合わせてそれぞれ答えなさい。

- 1 市場
- 2 影絵
- 3 作法
- 4 秘密
- 5 不利な点

問五 ~~~線部Y「正しい」のような、「〜しい」という形の言葉はたくさんあります。次の1〜6の各文の——線部は、いずれもそのような言葉です。〇〇〇〇にそれぞれひらがな三字を入れて、意味の通る文にしなさい。

- 1 同じ試食品を五つも食べるとは何とあ〇〇〇〇しい。
- 2 彼の書くカタカナの「ソ」と「ン」はま〇〇〇〇しい。
- 3 彼は落ちぶれてみ〇〇〇〇しい格好をしていた。
- 4 骨折した彼が歩いている姿はい〇〇〇〇しかった。
- 5 この建築のデザインは、古都にはに〇〇〇〇しくない。
- 6 東京オリンピックがは〇〇〇〇しく開幕した。

問六 ~~~線部Z「〇〇に照らして」のような、「〜」に「……て」という形の言葉はたくさんあります。次の1〜5の各文の□に適当な言葉をそれぞれひらがな三字以内で入れ、意味の通る文にしなさい。

- 1 遊ぶことに□て、約束を忘れてしまった。
- 2 折に□てアドバイスした効果が、試合で出てきた。
- 3 彼の今日の失敗は私に□て許してやってほしい。
- 4 これは昔の領主が金に□て造った宮殿だ。
- 5 悪口を言われたことを根に□て、仕返しした。

二 次の1〜3の各組から、意味する内容が大きく異なることわざをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア 猫に小判 イ 馬子にも衣装 ウ 豚に真珠
エ 牛に経文 オ 犬に論語
- 2 ア 弘法にも筆の誤り イ 河童の川流れ
ウ 犬の遠吠え エ 猿も木から落ちる
オ 麒麟のつまずき
- 3 ア 釈迦に説法 イ 河童に水練 ウ 孔子に学問
エ 猿に木登り オ 鬼に金棒

三 次の1〜6の漢字について、() 内に示された画を黒くぬりつぶしなさい。

- 1 因 (四画目) 2 己 (二画目) 3 医 (二画目)
- 4 誕 (十四画目) 5 卵 (三画目) 6 級 (八画目)

四 次の1〜6の各文について、——線部の敬語の使い方が正しければ解答らんに○を記入し、まちがっていれば正しい表現を答えなさい。

- 1 私は先生の姿を初めてご覧になりました。
- 2 私は先生の家にいらっしやいました。
- 3 先生は「こんにちは」とおっしゃいました。
- 4 先生は私に本をさしあげました。
- 5 私は先生の家で夕食をめしあげました。
- 6 先生が教室においてになりました。

五 次の1〜6の俳句の() に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれ後のア〜クから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二度使ってはけません。

- 1 今落ちし() 温みのあるごとく 有沢文枝
- 2 () や踏まれながらに咲きつづき 菅井たみよ
- 3 () に子の早起きは二日ほど 千才治子
- 4 あらがわず流れず風の() の穂 濱田のぶ子
- 5 掃き寄せる凍てて散りたる() を 細見綾子
- 6 () の渦を出でざる玉あられ 角川春樹

- ア 朝顔 イ 梅 ウ 山茶花 エ 薄
- オ 蒲公英 カ 椿 キ 野菊 ク 葉ぼたん

六 慣用句の中には、共通する漢字を持つものがあります。それを使って(例)のように慣用句を並べた文章を作り、ひらがなの部分は「○」に置きかえました。同様に作った文章の[A]〜[F]に入る漢字を答えなさい。ただし、漢字の読みは一回目と二回目で同じとします。

(例) ここから試合会場は「A○B○先」だ。今日こそはライバルの「B○C○」でやりたい。彼の実力は「C○D○」だが、ぼくだって負けてはいない。

〔答え〕 A 目 B 鼻 C 折 D 紙

(慣用句は「目と鼻の先」「鼻を折る」「折り紙つき」)

とっさに「A食○○B」でやりすごしたが、本当は「B○○C○出○」思っていた。友だちが「C○○○○○○○○煙○○D○○」と追及してくるのをかわすために、「D○板○○E」ででたらめをまくしたてたけれど、うそつきだと思われていないかな。今日のことは「E○F○」てくれるといいんだけど。

七 次の(1)〜(3)の漢字しりとりを、「条件」に合わせて完成させなさい。

〔条件1〕 漢字の読みはすべて音読みで、一回目・二回目とも読み方はまったく同じです。

〔条件2〕 [A][B]は、☆で意味を説明したことわざに使われる熟語です。

〔条件3〕 [A]の読み方は、「カ・ニ・ネン・ハイ・リョウ」から選びなさい。

(例) ☆ 幸運は人の力ではどうにもならないから、あせらずに時機を待つしかない。

晩 1 1 A A B B 2 2 知

〔答え〕 1 成 A 果 B 報 2 告

(ことわざは「果報は寝て待て」。条件に合う熟語は「果報」)

(1) ☆ 効果がなく、じれったいこと。

絶 1 1 A A B B 2 2 差

(2) ☆ いくら意見を言っても聞き入れず、ききめがな()と。

過 1 1 A A B B 2 2 体

(3) ☆ 身のためになる忠告は聞きづらいものである。

改 1 1 A A B B 2 2 位

